子どもの健康と発達を支える地域の力

今年はゲスト講師として千葉大学教育学部の三森寧子准教授による講演会をしていただきました。

どうすれば健康で幸せに生きられるのかは子どもの頃からの人生経験が重要であり、今、子どもたちを取り巻く健康に関する課題が多様化・複雑化していることや、健康の定義である「well-being」と現代の子どもたちとの関係性、子どもたちが健やかに成長できるよりよい場所や空間づくりの重要性などを教えていただきました。

また、子どもの健康・発達を支える地域の役割と地域社会の現状、学校を核とした地域のヘルスプロモーションの推進や、健康のための社会的ネットワークと地域活動の強化を図ることの大切さ、そして何より子どもたちだけでなく地域全員が「みんなこのまちが好き」と言えるようになるために、ＰＴＡや地域は何ができるかを横浜市のある地域をモデルにお話ししていただきました。

well-beingとは

健康の定義

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.　WHO（World Health Organization ）世界保健機関　憲章前文

良好な状態
満たされている状態（WHO）
人々の満足度（内閣府）
幸福（厚生労働省）
心身ともに健康かつ幸福な状態　　etc

地域社会の現状と子どもたち

1.地域社会における環境の変化
2.共同体の絆や相互扶助機能
3.子育て支援･養育機能の低下
4.各家庭の孤立化

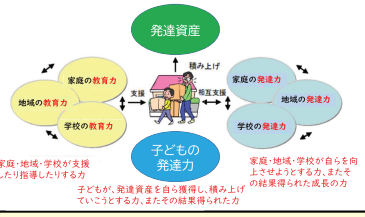
教育上の課題となっている子どもたち
「不登校の子ども」
「外国籍の子ども」
「障害のある子ども」
「貧困家庭の子ども」
「被差別部落の子ども」
「周辺化される目立たない子ども」

社会のケア機能

「日本学術会議　心理学・教育学委員会　排除・包摂と教育分科会」2020.8.26

子どもの健康・発達を支える地域の力

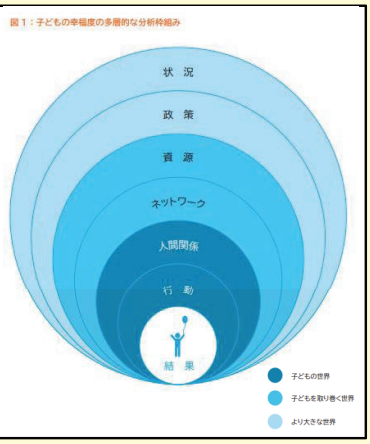
発達資産：子どもたちが発達する上で、獲得することが望ましい事柄



子どものwell-being

子どものwell-beingに影響を与えるもの
「子どもの世界」　：行動、人間関係
「子どもを取り巻く世界」
：資源、ネットワーク
「より大きな世界」：政策、状況

- より多く外で遊ぶ子どもの方がよりwell-beingである
- 頻繁に(月に数回以上)いじめを受けている子どもの方が、そうでない子どもより生活満足度が低い
- 学校への帰属意識が高い子どもの方が、学力も生活満足度も高い
- 子どもの保護者のネットワークは、保護者の生活の質に影響し、それが子どもの生活の質に影響する
- 家に学校の勉強に役立つ本があると答えた子どもは、ないと答えた子どもより学力が高い
- 地域に十分な遊び場があると答えた子どもの方が、そうでない子どもに比べて、よりwell-beingと感じている



人々のwell-beingとソーシャル・キャピタル

健康を高める人々の関係性や社会的な結びつきといった社会資本や社会関係資本、人間関係資本

ソーシャル・キャピタルを高める地域づくり

- 東日本大震災における「絆」の重要性
- 個人レベル、コミュニティレベル、社会・国レベル
- **親のソーシャル・キャピタルが子どもの健康に影響する**

→地域住民同士の信頼関係が高い場合、乳児虐待が75％予防される

子どものために大人にできること

- 子どもたちの「well-being」のための空間（場所）、ソーシャルキャピタル（つながり）、サービス、仕組み（政策）の整備。
- 子どもたちを守り育てる「家庭」「学校」「地域」の連携。
- 子どもたちだけでなく保護者自身の「well-being」も大事にし、すべての人にとっての「well-being」を実現する地域づくりのために環境づくりと行動化が重要。